la santé 健 康

ラ・サンテ

vol.150
令和３年４月28日
2021 春

編集・発行：社会医療法人玄真堂
広報委員会：畑辺恵美、立川隆子
中津市宮夫14-1
TEL0979-24-0464
http://kawashimahp.jp

『あおによし』 川嶌 照代 画

理　念

- 安心･安全･やすらぎ･心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド･コンセント（説明･同意･納得）を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

新型コロナウイルスに対するワクチンについて

社会医療法人 玄真堂　川嶌整形外科病院
院長　川嶌　眞之

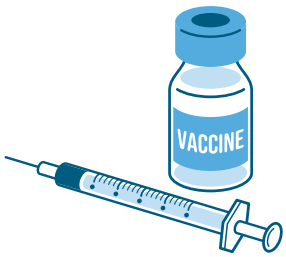
約1年前に中国で報告されて以来、世界中で猛威を振るい大きな混乱を引き起こしている新型コロナウイルス。熱発した入院患者や救急患者に対する対応等で当院も苦慮してきましたが、2月には当院で院内PCR検査が可能となり、ようやく診療環境が整ってきました。

同じく2月から日本でもワクチン接種が始まり、いよいよ中津市でも新型コロナウイルス感染患者の診療を行う医療機関の医療従事者を皮切りにワクチン接種が始まりました。

今のところ日本では3種類のワクチンが投与される予定となっていますが、そのうちのファイザー製mRNAワクチンから投与が開始されています。先行しているアメリカからの報告では、2回ワクチン接種した方は、接種しなかった方と比較して、初回接種から16週間後には新型コロナウイルス感染症の発症が95%抑制されたことが報告されています。懸念されるアナフィラキシー反応の発症頻度は20万人に1人程度で、一般的なワクチンと比べると5倍ほど高いようですが、抗生物質ペニシリンの5000人に1人と比べるとかなり少ないようです。ただし、日本においてはアメリカよりもアナフィラキシー発症頻度が高いとの報告もあり、今後の報告を注視する必要がありそうです。なお接種後には7割近くの方に接種部位の痛みが、3割近くの方には疲労感が、その他筋肉痛や発熱等が報告されていますが、接種後のある程度の炎症反応は想定の範囲内なので、接種後にこのような反応が生じる可能性があることを念頭に計画的に接種されることが望ましいと思います。またアレルギーの既往がある方は、ワクチン接種について主治医とよく相談し検討する必要があります。アレルギー学会によると、ポリエチレングリコールという成分が過敏反応の一因とも考えられており、国内外ともにアナフィラキシー報告が女性に多いことからも特に化粧品による過敏反応がある方は気をつけた方がよいようです。

今回、人類初のmRNAワクチンとのことで長期の後遺症を心配する声もありますが、ウイルスのDNAが人のDNAに混入する可能性がわずかながらあるとされるDNAワクチンと違い、mRNAワクチンでは接種後にmRNAからDNAが生成されることは（実験など特殊な環境以外では）なく、自然に分解されてしまうため、そのような心配はないと思われます。

当初はマイナス70度での保存が必要で、冷蔵庫内では5日しか保存できないとのことでしたが、マイナス20度でも2週間の保存が可能と報告されるなど、次々と新たな情報が入ってきます。ワクチン接種後、いつまでその効果が保たれるかなど、まだまだ不明な点もありますが、行政や医師会等の多くの関係者が寸暇を惜しんで協力しながら接種の準備をすすめていますので、皆様にはワクチンに対する理解を深めたうえで接種に臨んでいただければと思います。



パンデミックと免疫力強化

社会医療法人 玄真堂 川嶌整形外科病院
理事長 川嶌 眞人

ノーベル賞医学研究者の京都大学・山中伸弥教授が「ファクターX」と名付け、日本を含む東南アジア諸国の新型コロナウイルス感染拡大が欧米に比べ少ないのは何か理由があるのではないかといわれていることは、昨年から知られている。その正体とは何か。順天堂大学医学部の小林弘幸教授は、様々な研究から「ファクターX」は二つに絞られたという。

その一つは、人口100万人当たりの死亡者数が、米国やブラジルなど南米諸国や欧州等では感染者数が500人以上であるのに対し、日本をはじめとする東南アジア諸国では格段に低く、100万人当たりの感染者数も同様に低い傾向にある。何故だろう。「BCGワクチン」と「交差免疫」の存在が関係しているのではないかと考えられている。その一例としてBCG接種国であるポルトガルは、スペインの死亡者数に比べ100万当たりで3分の1以下であり、アジア諸国はほとんどの国で「BCG接種」が義務付けられている。一方、米国やイタリアではBCG接種を義務付けてはこなかった。また、欧州の多くの国では1970年代以降、BCGの接種を中止していた。昭和大学の大森亨准教授の研究によれば、118か国のBCG接種状況との関連性を調べたところ、患者数の増加速度で約1・7倍、死亡者数の増加速度で約2・4倍の差が生じていることが分かり、明白な結果が生じている。BCGは結核のみならず様々な感染症や悪性腫瘍にも有効である。自然免疫も同化するといわれており、丸山ワクチン等はよい例である。

もう一つに、近縁のコロナウイルスで得た獲得免疫が機能する「交差免疫」で、SARS、MERSの他、四種類の普通の鼻風邪ウイルスがあることはかねてより知られていた。そのためアジア諸国では、「メモリーB細胞」や「メモリーT細胞」などの免疫細胞が、新型コロナウイルスにも共通する目印を見付けて対処したのではないかと考えられている。これらは検証段階ではあるが、実証されれば、PCR検査や抗体検査だけではなく、「T細胞」の検査によって感染リスクを測ることが、新型コロナウイルス感染症の拡大抑止に重要な役割を果たすことができる。この自然免疫は外敵のウイルスが侵入してくると第一防波堤となり、最初にウイルスに挑むことになる。続いて、第二防波堤の「メモリーB細胞」「メモリーT細胞」などによる獲得免疫が機能することになる。山中教授は日本での感染拡大の具体的な対応効果について、「マスク着用や毎日の入浴などの高い衛生意識」、「ハグや握手、大声での会話などが少ない生活文化」、「日本人の遺伝的要因」、「BCG接種など、何らかの公衆衛生政策の影響」、「2020年1月までの、何らかのウイルス感染の影響」、「ウイルスの遺伝子変異の影響」等をあげている。

加齢に伴って、自然免疫の中心であるNK細胞の活性は急速に低下することが知られている。腸の中の核となるNK細胞を増加させる食物は、南米アンデスの高地民族が元気で長寿の人が多いということで知られており、京都大学の家森幸男教授等は、世界で最も長寿者が多い地帯として注目している。この地域では

NK細胞を増加させるオリゴ糖を含んだ食物が多く使用されている。このオリゴ糖を摂取すると腸内の善玉菌の中心であるNK細胞が増え、ウイルスや細胞の増殖を抑制し、更にアレルギーをも抑制することは古くから知られている。また、オリゴ糖を餌とするビフィズス菌などの善玉菌はオリゴ糖とともにNK細胞を増す重要な餌であることは知られている。この様なオリゴ糖を多量に含む食物としてヤーコン、バナナ、アボカド、ゴボウ、玉葱、ニンニク等がある。ヤーコンは糖の吸収を抑えて、癌細胞の増殖を抑制し、血糖値の上昇速度を抑える。更に、血圧の抑制も関係する善玉菌が増え、便秘の解消にも効果があり健康を害する悪玉菌とその生産物の影響も減少する。同様にアンデスの健康食物ではアボカドも免疫力の強化に有効な食物として知られており7千年以上前から食されていたことが、王の墓からアボカドの種が出土したことで証明された。

マチュピチにて

前野良沢は、「人間が自然界の一部を支配すると非常に傲慢になって独力でしたように勘違いをする。自分（人間）の力は自然界の力の一部という謙譲な心が重要」だと述べている。医学・医療も自然の免疫力を重視する心が大事である。今後、免疫を応用する力は、あらゆる疾病に役立つと思われる。

今年中には何とかコロナウイルスを鎮静化させ、通常の生活を一日も早く取り戻したいものである。苦楽吉祥。

ヤーコン

アボカド

40周年を迎えるにあたって

回復期センター長　田村　裕昭

40周年の節目を迎えるにあたり、これまで当院を信じて支えていただいている患者様や地域の方々、日常診療を通じて日々お世話になっている地域の病医院の関係者の皆様、ご指導をいただいている全国の病院関係の方々に、心から感謝申し上げます。

月日が経つのは早いとはよく言ったものですが、1981年3月5日に15人の職員とともに、理事長がクリニックを開院して今年で40年になりました。私事ですが、九州労災病院で最初に整形外科のご指導していただいたのがご縁で、1983年に50床に増床して病院になるのを機に就職し、その後は理事長に付いていきながら現在まで経過してきました。

1990年には90床に、1993年に93床に増床し、その後も当院は数々の変革を遂げてきました。この10年は、新クリニック・新病院の開設、急性期病床（62床）と地域包括ケア病床の分離（31床）、介護棟（老健施設なのみ、通所リハ、サービス付き高齢者向け住宅、デイサービスひだまり）の分離開設、そして2020年4月の回復期病床の新設と着々と充実し、ほぼすべての医療・介護部門の体制が整ってきました。この地域で当院が目指してきた、整形外科関連の急性期や亜急性期の医療から介護・在宅ケアまで、まだまだ不十分な点はあると思いますが、患者様それぞれの状況に応じて、安心して社会復帰していただくためのいろんな選択肢を提供できるようになってきたと思います。

現在、医局の常勤医師は、整形外科医10名、麻酔科医2名、脳神経外科医1名、リハ科医1名で、医師全員がそれぞれの専門性を追求しながら、年間約1300～1500例の種々の手術が、麻酔科の充実もあり、安全に遂行されています。

400名を超えるようになった種々の部門の職員も、「地域に根差した心のこもった医療・介護」の提供を目指して、それぞれの分野で最善を尽くすべく奮励してきたと思います。今後も、人と人の心のつながりを大切にしながら、理念を共有して、真摯に医療・介護に向かい合い、地域になくてはならない病院として存続していかなければならないと思います。

「40にして惑わず」の故事はありますが、先行き不透明な医療・介護関連の政策やWithコロナの時代への対応などに悩まされる場合も少なくありません。この時期に40周年を迎え、今後も起こってくると思われる想像を超えた様々な変化に対して怯むことなく、良質の医療の提供と地域の医療への更なる貢献を目指し、全員で融和団結して新たな挑戦をしていきたいと思います。

40年のご厚情に重ねてお礼申し上げるとともに、今後もご指導・ご支援を宜しくお願いいたします。

新人集合研修を終えて

回復期病棟　看護師　定野　文哉

3日間の新人集合研修を終えて、初日は初対面で皆緊張していて、会話も見られませんでしたが、2日目、3日目と時間が経つにつれ、友だちになり、会話が見られるようになりました。

講義では、当院の構造や患者に対して、また、多職種の方々に対しても接遇の重要性やチームワークの大切さを学びました。

そして今後、医療現場で働いていく際におこってくる様々な問題に、一人では考え込まずに先輩方に相談し成長していき、立派な医療従事者になれるよう頑張ります。

第38回 玄真堂友の会

通所リハビリテーション科
眞田　ひとみ

2021年3月27日土曜日、当病院内玄真堂ホールにて「第38回玄真堂友の会」が開催されました。

今回の開催は、コロナ禍での3密を考えての会場人数制限でリモート（3か所）での開催でした。テーマは「笑顔で健康づくり！～コロナに負けるな！正しい知識と免疫力UP！」で、当院理事長による「医学史から見たパンデミックの感染症とその行方について」と院長による「新型コロナウイルスに対するワクチン」の講演でした。

オープニングはコーラスによる春をテーマにした歌声と、ケーナの演奏で心なごやかな中、講演を聞くことが出来ました。今回は皆様がとても関心のある新型コロナに関する内容で、免疫力をアップするにはしっかりとした食生活と運動、日本には様々な力を持つ食品が多くあるので上手に調理をして摂取しましょうという内容でした。

またワクチンの話では新型コロナに対するのみでなく、他の種類のワクチンと副反応について詳しく説明して頂き、参加者の中には熱心にメモを取られる方もおられました。

今回の開催は参加して頂いた友の会の会員の皆様、また関係職員の方々にも大変満足して頂けたようでしたので無事に終了した事に感慨深いものがありました。この新型コロナ感染に負ける事なく友の会が継続出来る事を祈るばかりです。参加して頂いた皆様、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

TQM優勝！クリニックリハビリ一同熱盛！

クリニックリハビリテーション科　理学療法士　中野　郁也

TQMは1年間を通して、患者様や職員の満足度を向上するために取り組む活動です。今年は、「自利利他」をテーマに各部署から8チームの参加があり、3月6日に発表がありました。私たちクリニックリハビリのメンバーは、稼働率の向上・安定化を目的に、環境変化に対応できるシステムの構築を目指して活動を行いました。その結果、月当たりの総実施人数・新患数が上昇し、稼働率は目標値を大きく上回ることが出来ました。

取り組みは開始したばかりのため、現場の意見を取り入れつつ改変を行っていきたいと考えています。リハ科だけでなく医師、外来看護師等、他部署との連携が必要不可欠であり、クリニック全体で地域の皆様の健康を守り、社会に必要とされる病院となれるよう、リハ科からも法人を盛り上げていきたいと思います。

1位
クリニックリハビリテーション科

3位 栄養管理科

2位 事務局総務部

退任のご挨拶

医　師
濱田　泰彰

1年間という短い期間でしたが、たくさんの研修を積ませていただき、誠にありがとうございました。これまでにも複数の病院で働いてきましたが、当院はずば抜けて働きやすい職場であり、そのような職場で働くことが出来て、本当に幸せでした。また、直属の上司に当たる古江先生、後藤先生には大変ご迷惑、ご心配をおかけしましたが、最後までご指導いただき、感謝してもしきれない思いです。

とは言っても、一番辛かったことは、数々の行事がなくなってしまい、それに参加することがほとんど出来なかったことです。当院の過去の写真を見ていると、忘年会で職員が芸をしている写真やバスの中の写真、温泉旅行の写真などがありました。そういった会に参加出来たらなんて幸せなことだろうと何度思った事か分かりません。生まれ変わることが出来たら、そういった行事を開催できる時に、この病院で働きたいです。

最後になりますが、川嶌整形外科病院で診てもらいたいから、という理由で受診される患者様を担当させていただくことが多々ありました。地域の患者様から頼りにされている地元に根付いたこの川嶌整形外科病院が、今後も末永く繁栄することをお祈りしています。

なのみひなまつりを行いました♡♡

介護老人保健施設 なのみ
介護福祉士　橋本　友美

令和3年3月3日、なのみにて〝ひなまつり〟を行いました。昼食のちらし寿司に顔を綻ばせ「きれいだね！美味しいっ！」と利用者様は皆、大変喜ばれていました。

午後からは音楽療法のリチャード先生となのみ職員とで「うれしいひなまつり」をセッションし、利用者様の明るい歌声が響き渡った後、川嶌理事長による笛の演奏会がありました。理事長から笛の説明や長寿国ペルーのお話を、利用者様は熱心に耳を傾けていました。演奏が始まると笛の音色に合わせて手拍子を送られていました。演奏終了後は、おやつに桜餅と甘酒を口にし「今日は良かった！楽しかったし、おやつも美味しかった！」とのお言葉を頂きました。コロナウイルスの影響から自粛を要され、気持ちも落ち込みがちになる日々ですが、こんな時期だからこそ、利用者様と少しでも楽しみや喜びを共有していきたいと改めて感じた一日となりました。

「ひだまりシルバー作品展」開催！

デイサービスひだまり　古川　智依子

「デイサービス・ひだまり」では、毎年11月に中津文化会館で開催される中津市主催の「中津シルバー作品展」へ、ご利用者が1年を通して作られた様々な作品を出展しています。今年はこのコロナ禍にて、様々なイベントが中止になる中、利用者も楽しみにされていたこの「中津シルバー作品展」も中止となりました。「それならば！ひだまりの中でひだまりシルバー作品展を開催しましょう！」と職員の声が上がり、このひな祭りの時期に併せて、ホール内の片隅ではありますが、所狭しと展示致しました。毎年の出展へ向けて一生懸命作られた塗り絵や編み物、書道等の作品は展示する事でより一層引き立ち、利用者様も立ち止まって鑑賞されたり、何よりコロナ禍で気持ちも沈みがちな中、一生懸命作成された作品に癒しを頂いています。ご自分の作品を目にした利用者様は「こんなにきれいに飾ってもらえて嬉しい。また作品展に向けて頑張らなきゃ！」と、今年11月に向けての意気込みがすでに感じられました。

まだまだ終息しない新型コロナウイルス感染症ですが、ワクチン接種も始まり、確実に明るい方向へ向かっていると確信しています。今年の「中津シルバー作品展」に向けて、また皆様のお手前を拝見しながら、明るい情報と共に、明るい笑顔、笑い声の響く日常、そしてのびのびと地域で活動できる日を待ち望みたいと思います。

大分県北部高齢者骨折連携パス研究会

クリニック所長　永芳　郁文

『超高齢化社会』とよばれるようになりました昨今、当院でも年間２００例以上の大腿骨の付け根の骨折を認めるようになりました。また、脊椎圧迫骨折も２００例以上、上肢骨折も２００例以上と、極めて多岐にわたる高齢者の骨折の特殊性が浮き彫りになっております。いずれも半数以上は中津市外の患者さん達であります。また1カ月以内での自宅復帰は3割に満たないというのが現状であり、とくに、下肢や背骨の骨折は簡単には歩けないという厳しい状況を鑑みますと、さらなる医療介護連携の必要性は論を待たないといえるでしょう。

生活の質や日常動作の機能の低下を余儀なくされる高齢者骨折に対し、可能な限り対応できる医療と福祉の連携構築にむけて、当院では令和元年3月より〝大分県北部高齢者骨折連携パス研究会〟を開催しています。これは２００７年3月から活動していた〝豊前・豊後地域　大腿骨頚部骨折連携パス研究会〟の12年の蓄積とノウハウを生かして新たに始められた、まさに、医療と介護の垣根を超えた集いの場として、入院された患者さんとご家族のために存在する仕組みです。ぜひ、病院1階にあります地域連携室または最寄りのスタッフにご相談ください！

自宅でできる体操

介護老人保健施設なのみ　理学療法士　中橋　祐太

新型コロナウイルスの感染が継続して、自宅内で生活する時間が増えています。外出機会が減る事で運動量が減少してしまっている人が多いのではないでしょうか？特におなかや背中など体幹を支える筋肉は運動機会が少なく、円背等の姿勢の変化や腰痛、息切れに繋がる事があります。最近体が重く感じることや、直ぐに息が上がる事がありませんか？

今回は普段の体操では意識しにくい体幹の運動について『自宅で出来る体操』を紹介したいと思います。今回紹介するのは「仰向けで行う腿上げの運動」です。この運動はベッドの上でも行う事が出来る運動です。

この運動はまず写真のように仰向けになり、息を吐きながらお腹を凹ませて腰と床の間に隙間が出来なくなるようにします。両足は膝が直角に近くなるように立てて下さい。その後、ゆっくりと声に出して数を数えながら3秒かけて腿を上げるように片足を上げていきます。次に同じようにゆっくり声に出して3秒数えながら足をおろします。この動作を左右交互に行っていきます。この運動を行う時にお尻や腰が床から離れないように注意しましょう。腰痛が強い方はベッドの上など柔らかいものの上で実施するようにして下さい。慣れてきた方は両足同時に上げたり、膝を伸ばした状態で運動を行う事でより負荷の強い運動を行う事が出来ます。

この運動を行う事で腹筋と下肢の筋力を鍛える事ができ、転倒予防につながります。また、骨盤の矯正や腰痛の軽減にも効果があり、座った時の姿勢の改善にも繋がります。声を出して運動を行う事で肺の機能向上も図る事が出来、息切れの予防にもつながります。自宅でテレビを見ながら、寝る前のベッドの上など様々なところでちょっとの時間で行う事が出来ますので普段の生活の中で運動を取り入れる事で姿勢の改善と転倒予防を図ってみてはいかがでしょうか。

2021.1.27

ケアネット配信「COVID-19 医療経営を考える会」

（中津）

「医学史からみたコロナパンデミックから学ぶこと」

川嶌理事長講演

2021.2.15

健康長寿講話　（中津）

「コロナワクチンとコロナ感染症の行方」

川嶌理事長講演

院内勉強会

モーニングセミナー

2020.12.18

「Withコロナ、最近の話題と感染症の昔の話題」

田村回復期センター長

2021.1.15

「2020年の学び」

永芳クリニック所長

2021.2.19

「新型コロナウイルスとワクチンについて」

川嶌院長

カワシマハンドセラピィ研究会

2020.12.21

「肘周辺骨折について」

後藤診療副部長

2021.1.18

「事例検討」

岸本リハビリテーション部副主任・奥貞作業療法士

「知覚神経の説明」

石井作業療法士

2021.2.15

「事例検討」

川端作業療法士・永田作業療法士

「運動神経の説明」

杉木リハビリテーション部部長代理

院外発表・講演

2020.12.12

第25回日本基礎理学療法学会学術大会（オンライン）

「半月板損傷患者の歩行時の回旋モーメント～フリーモーメントに着目して～」

井原拓哉理学療法士発表

2020.12.17 ～ 19

第12回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、第46回日本整形外科スポーツ医学会学術集会　（神戸）

「Relationship between external knee moment and mechanical energy on leg during gait in the patients with early knee osteoarthritis」

羽田リハビリテーション部主任発表

2020.12.21

北九州リハビリテーション学院 1年生授業　（北九州）

「整形外科領域における理学療法の実際」

奥村リハビリテーション部科長講演

2020.12.23

株式会社富士薬品社内研修会　（中津）

「痛風雑話　高尿酸血症の現状と歴史」

川嶌理事長講演

2020.12.25

第43回日本骨・関節感染症学会学術集会 –オンライン学会–　（オンライン）

「長管骨化膿性骨髄炎に対する高気圧酸素治療と持続洗浄療法」

川嶌院長発表

2021.1.24

第23回大分県理学療法士学会　（別府、オンライン）

当院における鏡視下腱板修復術後の再断裂時期の調査及び再断裂に影響する因子の検討

尾道理学療法士発表

「足関節外果骨折術後患者の治療経験 ～足関節背屈可動域改善に着目して～」

谷理学療法士発表

2021.1.13
「膝蓋骨脱臼骨折の患者を担当して」
友松理学療法士

2021.2.10
「特発性膝骨壊死」
羽田見奈理学療法士

看護部勉強会

2020.12.7
「認知症、せん妄について」

2021.2.1
「トリアージ」

川嶌肩をカタらう会

2021.1.25
「肩関節の拘縮の概論と理学療法」
鈴木理学療法士

2021.2.22
「上腕骨近位端骨折後の急性期リハビリテーション」
穴見理学療法士

膝関節勉強会

2020.12.9
「TKAについて」
本山副院長

医局抄読会

第１、２、４火曜日の朝７時45分スタート

2020.12.1
内側半月後角損傷に対する早期の外科的修復は半月の脱出の進行を抑制する
鏡視下経脛骨プルアウト修復後の２年間の臨床的そして放射線画像での経過
本山副院長

2020.12.8
橈骨遠位端骨折への掌側ロッキングプレート固定の際、方形回内筋の修復は不要である
古江副院長

2020.12.22
大転子疼痛症候群に対する集中衝撃波治療
川嶌院長

2020.12.29
COVID-19に対するワクチンの進歩について
渡邊医長

2021.1.5
低エネルギー性の大腿骨骨幹部骨折に対し、大腿骨頚部の保護をした髄内釘の使用が再手術の危険性を減少させた
佐々木診療部長

2021.1.12
覚醒下、局麻を使用したターニケットを使用しない手術を行われたモデルは運転技術に影響を与えない
後藤診療副部長

2021.1.26
脛骨骨幹部骨折に関連した後果骨折と骨接合の順番
濱田医師

2021.2.2
若年成人半月の微細血管解剖と固有の遺伝子発現
本山副院長

2021.2.9
舟状骨偽関節に対するプレート固定の中期成績
古江副院長

論文（共同含）・誌上発表

●川嶌眞人：村上玄水の画像新発見③　村上玄水と宇田川玄真について, 中津市医師会会報第61号：46-48, 2020
●川嶌眞人：前野良沢の自然思想, 醫譚復刊第112号：No129, 47-48, 2020

プラスチックごみの削減

省資源・省エネルギー委員会　委員長　上杉　萌々

省資源・省エネルギー委員会では、活動の一環としてプラスチックごみの削減の為にマイボトル月間を設け、ペットボトルを購入するのではなく、自宅から水筒やタンブラーを持参し、プラスチックごみを減らす活動を行っています。２０２０年７月１日から、日本政府は廃棄物・資源制約・海洋プラスチックごみ問題、地球温暖化などの課題に対し、プラスチック製品の過剰な使用を抑制する事を目的として、レジ袋の有料化を義務付けました。これをきっかけに、マイバッグを持参する方も増えたのではないでしょうか。

プラスチックごみは海洋の汚染だけでなく、海で暮らす生き物や産業、私たちの体にまで影響を与えます。プラスチックはさまざまな化学汚染物質を吸着する性質もあり、魚などは体内に蓄積されることから生き物に影響が出る事も明らかです。さらにそれを口にした場合、人に甚大な悪影響を及ぼす可能性があります。

プラスチックごみを減らす為に私たちに出来る行動は、マイバッグ、マイボトルの持参、小分けにするポリ袋の使用を控える、マイ箸、マイスプーンの常備、プラスチック製のストローの使用を控える、ゴミは分別して捨てる、などがあります。地球環境に優しい選択を行い、プラスチックごみの削減に取り組み、生活の中で実践していきませんか。

お知らせ

編集後記

色とりどりの花が咲き競う季節となりました。この1年は、新型コロナウイルスの為いつも通りにいかない事が多く戸惑うばかりでしたが、ラ・サンテは例年通り発行する事ができホッとしております。1年間ありがとうございました。

次号からは、新メンバーでの作成となりますが、引き続きご愛読頂けると幸いです。

（H・E）

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

［患者様の権利］

1．病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2．人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3．医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4．医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5．自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6．自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7．プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8．健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9．安全を確保される権利があります。

［患者様の責務］

1．医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2．他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3．早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4．円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5．早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6．診療費の遅滞ない支払い